



# 地区ニュース



People at Peace

PR情報委員長 飯塚平八郎・副委員長 八嶋誠・委員 西野茂 田久保辰男 山村政男 木内直義 月崎春仁 荻野武雄 鎌田雅郎・地区ニュース編集委員 湯辺成之 川崎忠男



## 【特 報】



333-C地区・初のガバナー

## 式場俊文夫L 逝く

— 謹んで哀悼の意を表します —

PR・情報委員長 L.飯塚平八郎

われらの式場ガバナーは、闘病への執念とご家族やライオンズメンバーの祈りも空しく、遂に7月31日午後6時18分、75才を限り東京都文京区順天堂大学病院において不帰の客となられた。

通夜は8月1日午後7時より自宅において、また、告別式は8月2日午前11時より式場病院において、病院・ライオンズ合同葬の形で執り行われた。

葬儀委員長は式場病院院長、式場聡氏（故式場隆三郎L令息）同副委員長は333-C地区幹事、吉原稔人Lと故人の所属された市川LC会長、関口博之L、喪主は式場壮吉氏（故人の令息）であった。

正副委員長や名誉顧問会議長、杉浦明Lによる弔辞はそれぞれ胸を打つものであった。また、ライオンズ国際協会会長、村上薫Lからは、遠くテキサス州より弔文を電話で寄せられ、これを国際理事会指名委員、鴻巣徳次郎Lが代読された。

故人の徳を慕う会葬者は、炎暑もいとわず、引きも切らなかつた。

思えば市川LC結成以来、20年余にわたり例会皆出席を続けられた式場Lが、にわかに死出の旅につかれようとは、誰が想像できたであろう。

近くは、この4月19日のことである。千葉市における333-C地区、固定キャビネット事務局の開局披露の際には、お元気で陣頭に立たせ、先ず、村上国際会長の誕生と千葉県の独立について祝福を送られた後、次のように挨拶されたことが思い出される。

私がガバナー就任をこれ以上辞退することは友情に反し、退会を余儀なくされるまでになるので、遂にお引き受けすることにした。この上は333-C地区準備委員長、杉浦明L以下の付託に応えるべく頑張りたい。

顧みれば、昭和27年3月、フィリッピン・マニラLCのスポンサーで結成された東京LC発足の日より30年の長い歳月が流れ、当時の57名のライオンズ人口が現在は約2500倍の14万を超えるまでに成長した。日本ライオンズは来る10月盛大に30周年の式典を挙げる。

昭和27年というサンフランシスコ講和条約が発効した年であり、いわば新しい戦後の日本の年令と同じ

と言えると思う。同じく30周年を迎える日本航空と同様にライオンズもまた大いなる羽ばたきを見せた。私個人にとっても今はなき兄の隆三郎が東京Cのチャーターメンバーだっただけに感慨無量のものがある……と余韻嫋嫋たる話が続いた。それは、さながら物語ともいふべきものであった。

かくして旬日後の5月1日、式場Lは突如として入院された。それは東の間の静養とも思える入院であつたらしく、水戸市における5月9日の333-B地区年次大会と翌10日の333複合地区年次大会への出席に希望を持ち続けられたようだ。しかし、それが叶わないことを知るや、6月中旬開催のフェニックス国際大会ガバナー・エレクト・セミナーには是非ともという闘病の執念を燃やされていたと聞く。

しかしながら、式場ガバナーも遂に病には勝てなかつた。われらの悲しみもさることながら、ガバナーご自身の無念さは如何ばかりだったろうか。今は只ご冥福をお祈り申し上げるばかりである。

末筆ながら、ご遺言によりガバナーの角膜は、直ちに開眼を待っていた人に送られた由、死してなお奉仕を重ねられるその尊いライオンズは、盲人の獲得する光明と、そしてまた、ガバナーの作られたACTスローガン「豊かさ」と知性で創るコミュニティ、とともにライオンズの歴史に燦として輝き続けることであろう。

\* \* \*

7月中に発行予定の地区ニュースNo1は都合により大幅に遅延し、ご迷惑をおかけしています。深くお詫び申し上げます。

式場ガバナーのご逝去の報道については、No1への掲載は間に合わず、また、No2は9月発行のため、遅くなり過ぎますので、特報を以ってお知らせ申上げました。

なお、No2には、杉浦明Lが名誉顧問会を代表して追悼文をお寄せ下さることになっています。